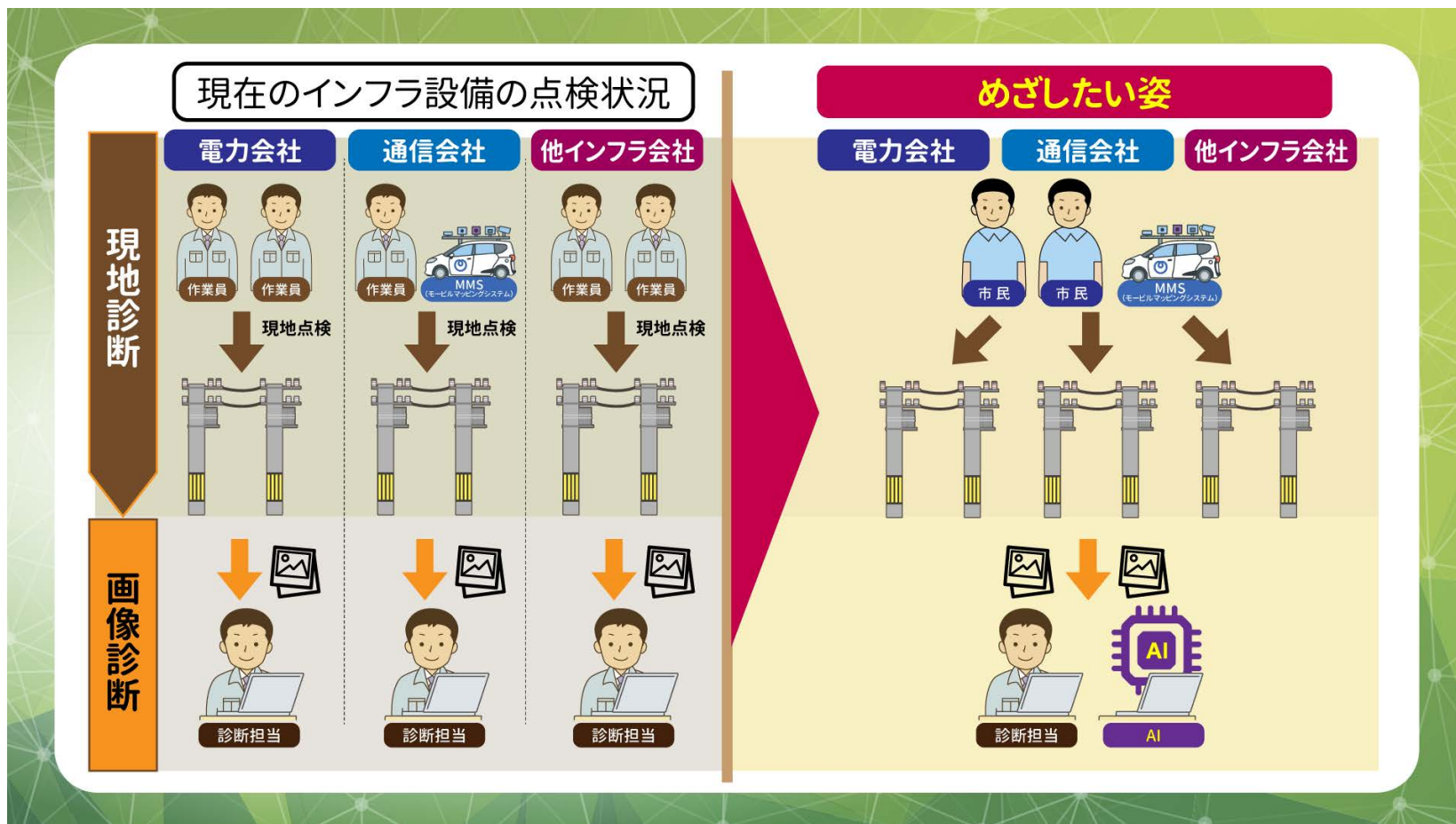




実証実験の目的および内容について

実証実験の目的

本実証実験は、市民による電柱の撮影、AIを活用した画像診断、専門オペレーターによるリモート診断を組み合わせることで、**電力会社と通信会社が同じ仕組みのもとで効率的に点検できる新しい「共同点検モデル」**の実現性を検証します。市民撮影イベントで取得された画像を共通の基盤で扱い、診断基準や作業フローを揃えることで、**両社が同じ仕組みのもとで効率よく、高品質に点検できる、サステナブルな点検体制づくり**に繋げていくことを目的としています。



「共同点検モデル」の実証を通じて、インフラ設備の保守点検の一連のプロセスにおける、高度化・効率化の余地とそれらの実現性について、検証を実施します。

共同画像収集・診断・保守プロセスフロー

STEP

01



画像収集



保有会社を意識しない
「ピクトレ」を活用した協同画像収集



- 電力会社・通信会社がそれぞれ行っていた点検業務を統合。
- 「ピクトレ」を活用し、両社の設備を所有会社に関わらず一括で画像収集できるかを検証します。

STEP

02



画像解析
診断



NTT西日本グループのリモート診断
による新オペレーション運用

- STEP1で収集した画像を、NTT西日本の技術を活用した一括リモート診断。
- 点検結果のばらつきを解消し、均一な品質を確保しつつ、インフラの問題を効率的に発見します。



AI診断の有効性を検証(品質・効率性向上)

- 市民撮影の画像を中心に、NTTフィールドテクノの画像診断AIを活用。
- 電柱部分の劣化診断などを自動化し、さらなる品質と効率の向上をめざします。

STEP

03



現地保守
診断結果活用



診断済みデータの現地保有への活用



- 診断されたデータを基に、現地保守業務を効率化するための活用方法を検討します。

(参考) NTT西日本「リモート診断」について

NTT西日本グループでは、構造物点検の高度化・効率化を目的として、**MMS※¹により撮影されたインフラ構造物の画像を用いたリモート診断を実施**しています。これらの導入により、従来の現地派遣型の点検に比べ、**短期間に品質を均一化した点検が実現**でき、インフラ設備点検の高度化・効率化に寄与しています。

※1 Mobile Mapping Systemの略。レーザスキャナとカメラを搭載した車両を用いて、設備の形状・外観の画像取得を実施する

